



祈りと芸能の原点、翔鷹を視る

～二大プロデューサー 義満と秀吉～

京 上京探訪

～語り部と歩く1200年～



平安京外西北に広がる原野だった北野。その姿を大きく変えたのが北野天満宮です。室町幕府歴代将軍や豊臣氏の篤い庇護を受けて興隆し、京の最大行事「北野経会」や、全国の数奇者を集めた大茶会「北野大茶湯」には、貴賤上下男女奴婢問わず多くの人々が群集しました。賑わう参詣者を相手に京都最古の花街・上七軒が起り、諸芸能の中心地となり歌舞伎が発祥します。松風吹かば梅花薫る翔鷹学区を歩いてみましょう。

⑤ 西方尼寺(真盛町)

天台真盛宗の宗祖・真盛が開山。町名はこれに由来します。北野大茶湯で干利休が用いたという「利休の井」が本堂前にあり、豊臣秀吉が茶味に適すと賞賛した京銘菓「真盛豆」が代々伝わっています。上七軒の芸舞妓は、当寺で裏千家の茶道を習っています。

⑥ 北野天満宮

天曆元年(947)創建。菅原道真公を主祭神とし、天神信仰の中心をなしています。藤原氏や足利氏など、歴代為政者の篤い庇護を受けて栄えました。元久元年(1204)の北野宮歌合を端緒に、和歌や連歌の神としても崇められています。天正15年(1587)、豊臣秀吉が約800もの席を立てたという北野大茶湯を催行、その折に使用された太閤井戸が残っています。また四条河原のかぶき興行に先立つこと慶長8年(1603)、出雲阿国がかぶき踊りを興行したことから、歌舞伎発祥の地とされています。国宝の指定を受ける本殿は豊臣秀頼が造営したもので、絢爛豪華な桃山文化を今に伝えています。

① 大報恩寺(千本釈迦堂)

安貞元年(1227)創建。本尊に釈迦如来像を安置することから、千本釈迦堂と呼ばれています。嘉禎元年(1235)より俱舎・天台・真言三宗兼学の道場でしたが、現在は真言宗智山派に属します。本堂は度重なる災害にも焼けず創建当時の姿を残し、洛中最古の建築物で国宝に指定されています。京の大半を焼き尽くした応仁・文明の乱においても、西軍総大将・山名宗全の特別な計らいから守り抜かれたと伝わり、無数の刀、槍の傷跡が柱に残っています。毎年12月7・8日の大根焚き行事は、京の師走の風物詩として有名で、無病息災を願う多くの人々で賑わいます。

② 北野経王堂願成就寺

応永8年(1401)、明德の乱において討伐した山名氏清の菩提を弔うために、足利義満が北野社の社頭に建立。正面57m余奥行48mの大堂で、北野の名物として洛中洛外図屏風などにも描かれました。この時千人の僧が十日間にわたり誦経したのが、後に「北野経会」と呼ばれ京の最大行事となり、北野に多くの人が集まる由縁となったといえます。江戸時代には荒廃し、寛文11年(1671)に解体縮小されて小堂となり、遺構の木材で復元、縮小されたのがこの観音堂です。仏像などの遺物が大報恩寺霊宝殿に保管されています。

③ 地獄辻子(突抜町)

インドからオランダ人を介して渡来し、江戸時代に流行した縦細縞の綿織物、奥縞(棧留縞)。輸入品を唐奥と称したのに対して、地元産の品を地奥と称し、当町の人たちも織り出していました。この由縁から「地奥辻子」と名がつき、後に転訛して「地ごく辻子」「地獄辻子」となったといえます。「蓮如上人子守唄」にも地獄辻子の名が見られます。

④ 上七軒

鳥居前町、社家長屋町、真盛町からなる京都最古の花街です。文安元年(1444)、文安の趨騒動で焼失した北野社再建の折、余材で七軒の茶屋を建てたのが始まりと伝わっています。天正15年(1587)北野大茶湯の折、豊臣秀吉から土地の名産御手洗団子を非常に誉められて、山城国中の法会茶屋株を公許されました。現在五つ団子の紋章が用いられるのは、この故事に基づいています。毎年春には「北野をどり」が、京都五花街の先陣を切って上七軒歌舞練場で開催されています。

スタート



洛中最古の建築物!
西軍総大将・山名宗全が
守りぬきました。

⑦ 大杉社

室町時代作成の「社頭古絵図」に樹齢数百年らしき二又の杉の巨木が描かれており、千年以上の時を経てきたと推定されます。歓喜天の宿る御神木とされ、室町期には福德の信仰を集めました。息子が早世した足利義持が第二子の誕生を願ったといえます。後に落雷により二又の幹がくじけ、現在は根幹を残しています。

⑧ 御土居

天正19年(1591)に豊臣秀吉が築いた、京を囲む全長約22.5kmの土塁「御土居」の一部が残っています。御土居は京の境界であり、御土居の内部を洛中、外部を洛外、道が横切る場所を口と呼びました。春の梅園が有名ですが、平成19年(2007)より秋はもみじ苑として公開されています。

⑨ 観音寺(東向観音)

延暦25年(806)創建、当初は朝日寺と号しました。天曆元年(947)当寺住職の最鎮らが北野天満宮を建立。応和元年(961)筑紫の観世音寺より菅原道真作の十一面観音を請来、安置しました。花園、後醍醐、光厳、光明たち四天皇や足利尊氏から篤く帰依され、天満宮御本地仏、北野神宮寺として栄えました。大聖歓喜寺(現在の雨宝院)に男天単身像の歓喜天が祀られており、霊験が増すと考えられたのか、当寺と合わせて参詣した史料が多く残っています(歓喜天は十一面観音を女天とする双身像が多い)。元来は東西両向の二堂がありましたが、焼失。慶長12年(1607)豊臣秀頼により現在の東向観音堂のみ再建されました。



ゴール

【注意事項】このマップは、まち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。
【主催】京都市上京区役所 【共催】まいまい京都 <http://www.maimai-kyoto.jp/> 【発行】京都市上京区役所区民部総務課 京都市印刷物 第 号【お問い合わせ】京都市上京区役所区民部総務課 電話:075-441-5029

